

# 神戸三宮「えき≈まち空間」・税関線 景観デザインコード 〔概要版〕

## 神戸三宮「えき≈まち空間」・税関線 景観デザインコードとは

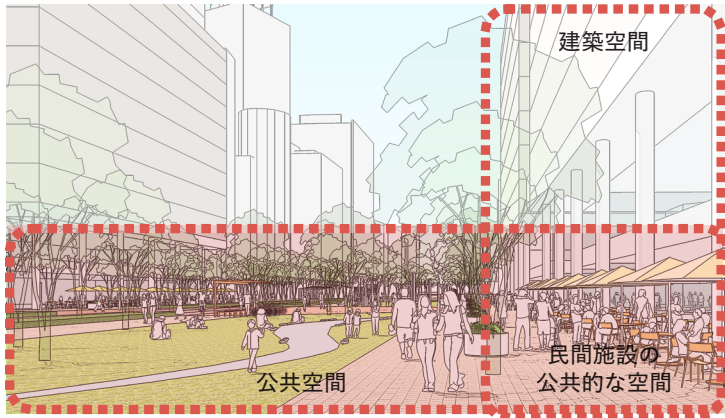
### 概要

公共空間と沿道建築空間が一体となった魅力的な景観づくりを進めるため、公共空間の整備に向けた計画や、周辺の建築空間のあり方（配置、ボリューム、意匠、色彩、外構等）を、視覚的に分かりやすくまとめたもの。

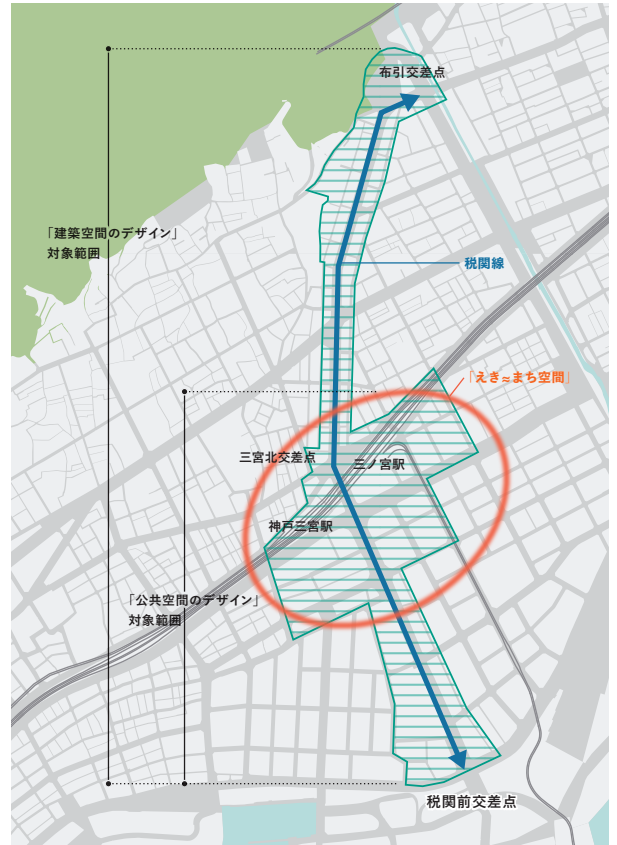
### 目的

- ・ 市民や市内外事業者等に三宮が変わる姿を提示
- ・ 民間事業者等と目指す都市空間のデザインを共有し、社会情勢や地区の特性に応じて協議を重ねながら創造

“官民連携による神戸の玄関口にふさわしい空間を創出”



## 対象範囲



## 目指す空間像

### 神戸らしさ

- ・ 都市的な建築物と美しい港、緑豊かな六甲山系により構成される都市と自然が調和した上質なまちなみ
- ・ 開港以来、国際性に富み、個性豊かなヒト・モノ・コトを受け入れる“進取の気性”
- ・ 震災を乗り越えた助け合いの心を持ち、多様な人々が集まり交流するまち

### BE KOBE

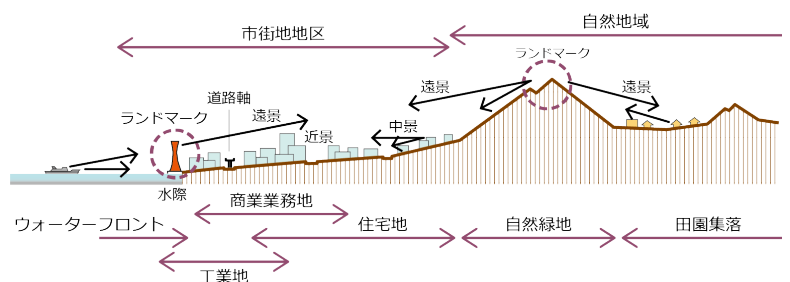
- ・ 「人」がまちの主役
- ・ 暮らす人が誇りを持つまち、訪れる人が好きになるまち
- ・ 50年後、100年後にもずっと魅力的であり続ける

### 重要な視点

- ・ 都市と自然が調和した上質なまちなみを持続的に発展
- ・ 次代を担う子どもたちの原風景の創出
- ・ 街並みや活動を通じた世代間の交流

“人が主役の居心地の良いまち都心・三宮～BEKOBEの思いをまちづくりに活かす～”

- ・ 公共空間や沿道建築物とそこを訪れる人々の活動が相互に呼応
- ・ 公共空間はまちの背景となり、沿道建築物と調和
- ・ “人が主役”の居心地の良い「上質」で「洗練」された都市空間の創出



# 景観形成方針

景観形成方針とは、今後、官民が連携しながら公共空間と建築物が一体となった魅力的な景観を創出するために、実現すべき将来像の共有を図ることを目的としたものであり、「5つの柱」と「12の方針」により構成します。

**柱1**  
公共空間と「まち」のつながり  
方針1：  
都心の回遊性の向上

方針2：「まち」の特性をふまえた空間構成  
方針3：官民一体となったにぎわい

**柱2** 開放感とゆとりを感じる空間

方針4：人が主役となる居心地良い空間  
方針5：海や山・空への広がり

**柱3** 高質で穏やかなデザイン

方針6：高質で穏やかな設え  
方針7：にぎわいのある上品な夜間景観  
方針8：地区や通りの特性をふまえた広告物

**柱4** 新しい神戸の玄関口

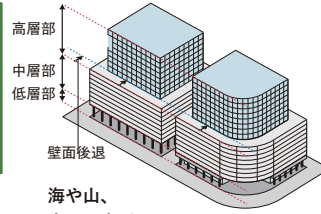
方針9：三宮交差点の顔づくり  
方針10：神戸を象徴する空間

**柱5** 「海」と「山」をつなぐシンボルロード

方針11：「海」と「山」をつなぐ  
方針12：統一感がありながら変化を演出



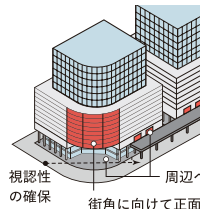
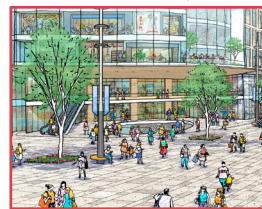
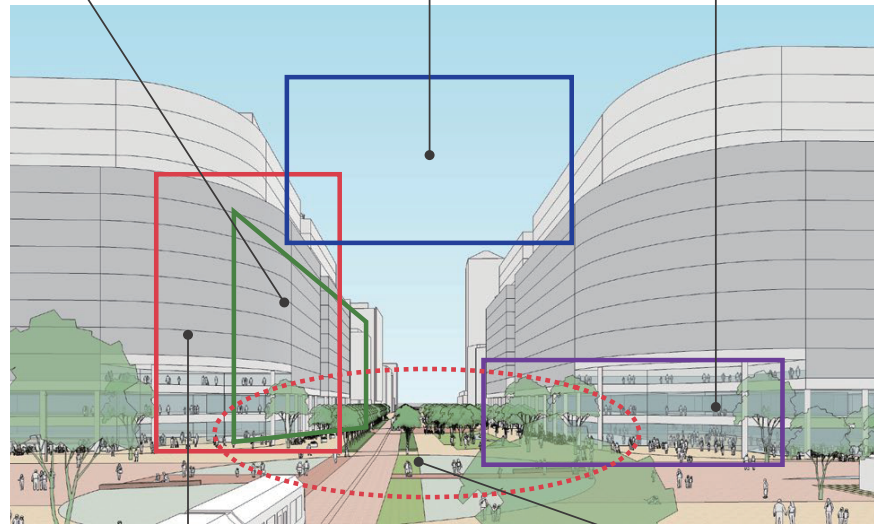
連続性や一体感のある洗練されたまちなみ  
・遠景、中景、近景に配慮した建築物のデザイン  
・壁面位置や軒線の誘導等による一体感のあるまちなみづくり



海や山、空への広がり  
・海や山、空への見通し景観に配慮したまちなみづくり  
・高層部のセットバックによる圧迫感の軽減や都市空間の広がり確保



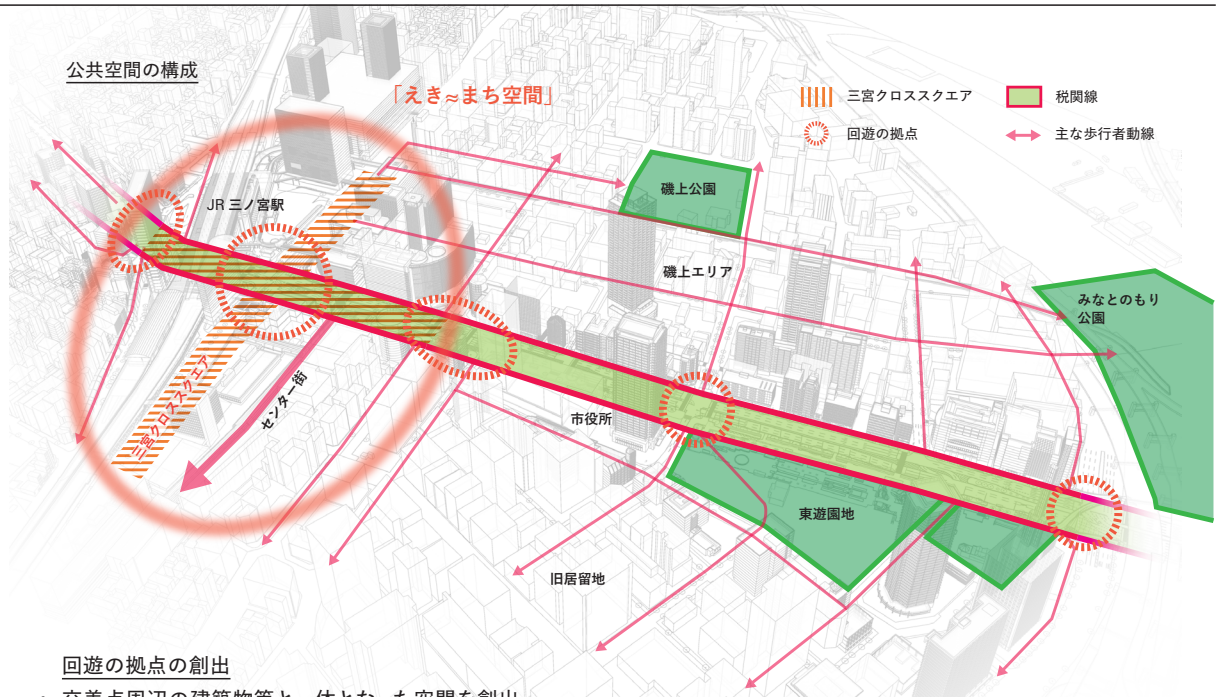
官民一体となったにぎわい  
沿道建築物がまちにひらき、公共空間と一体となったにぎわいの創出



街角の顔づくり  
神戸の顔を印象付ける正面性のある軽やかで空間の広がりを感じられるコーナーデザイン  
周辺への回遊を促すエントランス・通路  
街角に向けて正面性をもたせる

人が主役となる居心地の良い空間  
人が活動する様子や花・緑を引き立たせるモダンでシンプルなデザイン

# 「公共空間」のデザイン



**回遊の拠点の創出**  
・交差点周辺の建築物等と一体となった空間を創出  
・花や照明などのファニチャーや、舗装の統一感により演出  
・人のたまり空間を創出  
・税関線から周辺のまちへの回遊の仕掛けづくり

## デザインの考え方

### 基本事項

- 三宮クロススクエア  
訪れる人を迎える神戸の玄関口に相応しい上質で洗練されたデザイン
- 税関線  
三宮クロススクエアと一体となり神戸のシンボルロードに相応しいデザイン

### 形態・色味・素材等

- 「人が主役」として街行く人々が映えるよう、無彩色を中心とした低彩度の色味で構成
- 自然素材や仕上がりの美しい高質で穏やかな設えに寄与する素材を採用



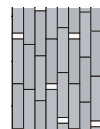
### 三宮クロススクエア

- 神戸の玄関口にふさわしい特別感
- 大判の石材を使用することでゆったりとした落ち着いた趣きを演出



### 税関線

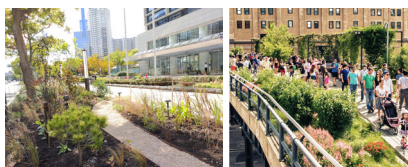
- 生田川の記憶を継承する「流れ」のイメージ
- 自然と歩きたくなる心地よい流れを演出



## 花とみどり

都市の中に花と緑の高質な空間「自然の景」を創出し、先取性のある花と緑のまちとしての神戸ブランドを形成

### 「えき〜まち空間」・税関線における展開

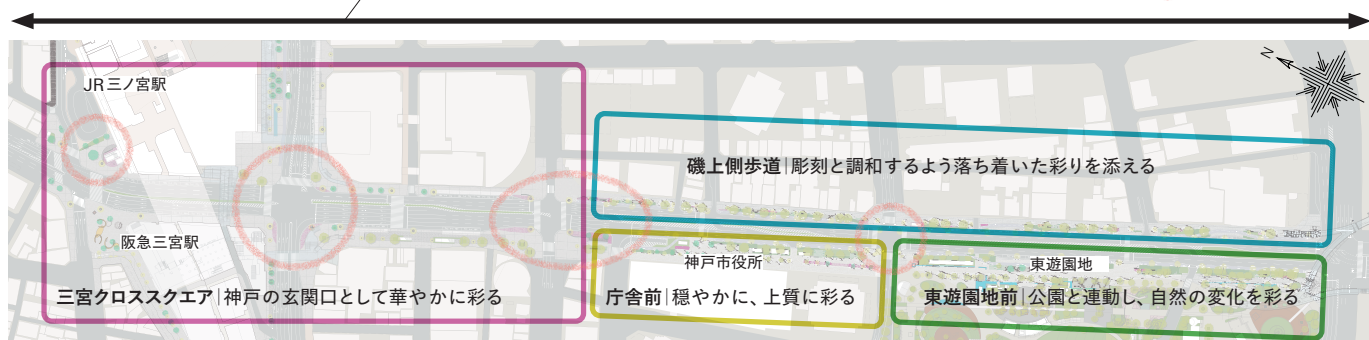


Naturalistic Landscaping  
(自然を感じる草花植栽の景)



Floral Installation  
(花によるアート空間の演出)

花で回遊の拠点  
(交差点部)の顔をつくる



## 夜間景観

既往の「神戸市夜間景観形成実施計画(都心・ウォーターフロントエリア)」や「まちのあかりガイドライン(税関線沿道南地区)」に基づいて上品な夜間景観を形成するとともに、人が主役として映えるよう、人のアクティビティを照らし、楽しく歩けるにぎわいある街路景観を演出



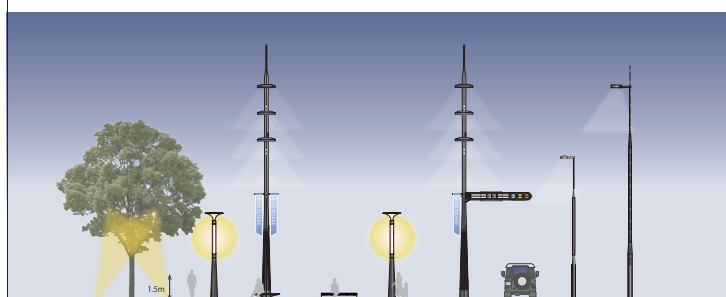
### 三宮クロススクエア

洗練された照明や沿道建築物から漏れ出る明かりにより、通りへのにぎわいの連続性を演出することで、神戸の玄関口にふさわしい上品な夜間景観を演出

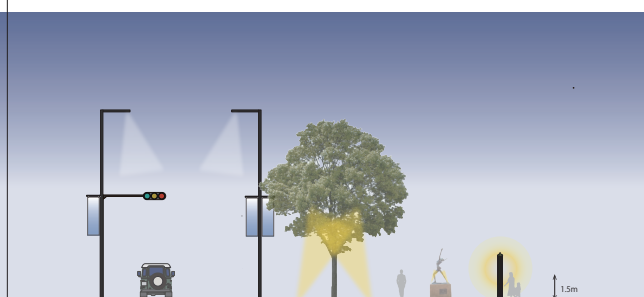
### 税関線

フラワーロードのシンボルである「花」「緑」「彫刻」を活かし、ライトアップなどによる「光のミュージアム」をテーマとした道路空間の創出および軸性の演出や回遊性の向上

### 三宮クロススクエア



### 税関線



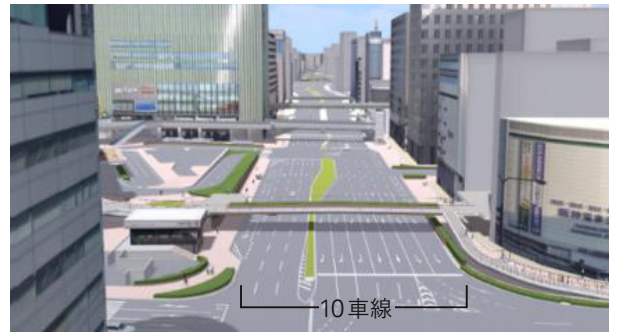
# 三宮クロススクエア

## 概要

- ・ 駅前の幹線道路を人中心の広場空間へ転換し、沿道建築物と一体となったにぎわいを創出するとともに、駅から周辺のまちへのつながりを強化し、神戸の玄関口にふさわしい空間を創出
- ・ その実現に向けては、必要な交通対策を実施し、交通状況を見据えながら段階的に三宮交差点の東側から整備

## 東側・段階整備のイメージ

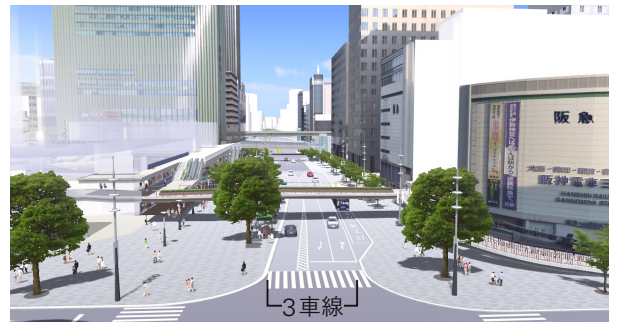
### 現況



### 第1段階 | 2029年度目標 (JR 新駅ビル開業と同時期)



### 第2段階 | (大阪湾岸道路西伸部供用後)



三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間

## デザインコンセプト

“美しき港町・神戸の玄関口として、常に新しいヒト・モノ・コトとの出会いがある、人が主役の居心地の良い広場空間”

- ・ 都市と自然が調和した上質なまちなみを背景に、神戸らしさを五感で感じることのできる居心地の良い空間
- ・ 多種多様な人々が集い、様々な活動や交流が行われ、進取の気性を受け継ぎながら、新たな神戸らしさを醸成し発信する空間
- ・ 神戸に来たというワクワク感を感じるとともに、周辺の「まち」へ移動したくなるような空間
- ・ 整備の考え方
  - ・ 神戸の玄関口にふさわしい高質な素材と洗練されたデザインの採用
  - ・ 公共空間と沿道建築物の一体的な空間形成によるにぎわいと回遊性の創出
  - ・ エリアマネジメントによるにぎわい利用を想定した、多様なアクティビティに対応可能な空間構成
  - ・ 歩行者空間と自転車走行空間の分離による安全・快適でウォーカブルな空間創出
  - ・ 異常高温対策の導入による快適で持続可能性の高い空間の実現
  - ・ 帰宅困難者の滞留機能など高い防災性能を有した空間の実現
  - ・ 感染症に強い新たな生活様式に対応したフレキシビリティのある空間構成とファニチャー配置



# 税関線

## デザインコンセプト

「海」と「山」、「人」と「まち」を結ぶ、  
人が映える舞台となる通り  
～Urban Canvas Boulevard～

- 1 「人」が映える舞台となる歩きたくなる通り
- ・ 「えき」の「にぎわい」をウォーターフロント、さらには東西の「まち」へつなぎ、回遊を生み出す空間
  - ・ 人の活動が映える舞台となるような人中心の楽しく歩ける空間

- 2 都心部を貫き、「海」と「山」を結ぶ
- ・ 海と山を感じながら歩くことのできる公園のようなストリート
  - ・ 質の高い緑や花々で彩られた「フラワーロード」の愛称にふさわしい“おもてなし”の空間

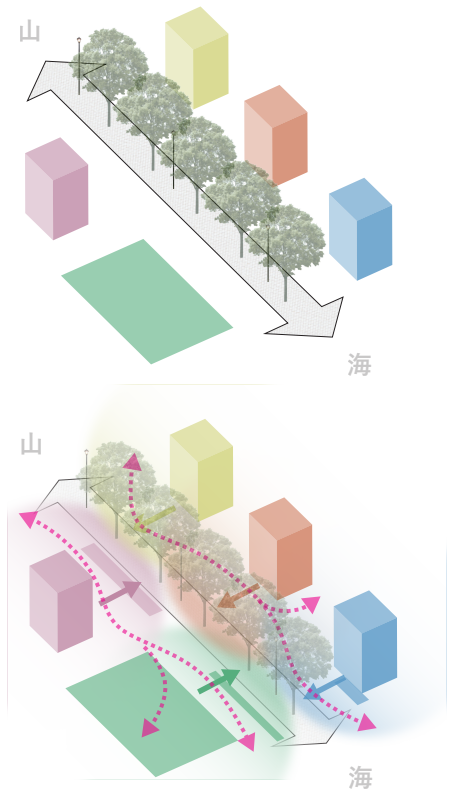
- 3 沿道建築物と一体となり「ひと」と「まち」を結ぶ
- ・ 性格の異なる沿道からの「にぎわい」が染み出し、多様性を感じる空間

### 手法

- 1 歩行者動線の機能強化と滞留空間の確保
- 2 都市軸としての軸性の確保と魅力的な回遊の拠点の創出
- 3 沿道建築物と公共空間が一体となったにぎわい創出

手法2  
都市軸としての軸性の確保と魅力的な回遊の拠点の創出

手法3  
沿道建築物と公共空間が一体となったにぎわい創出



## 空間構成

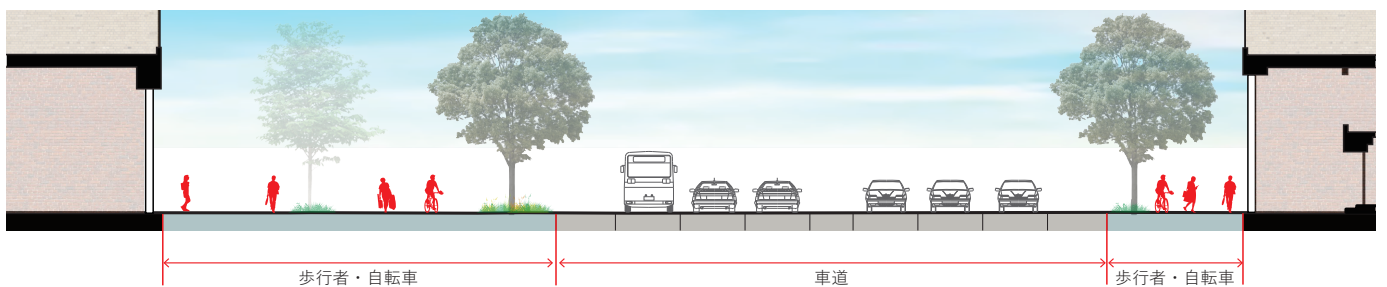
### 6車線から4車線へ車線数再編 (国際会館以南)

(現状交通量21,253台/日 < 4車線の設計基準交通量28,800台/日)

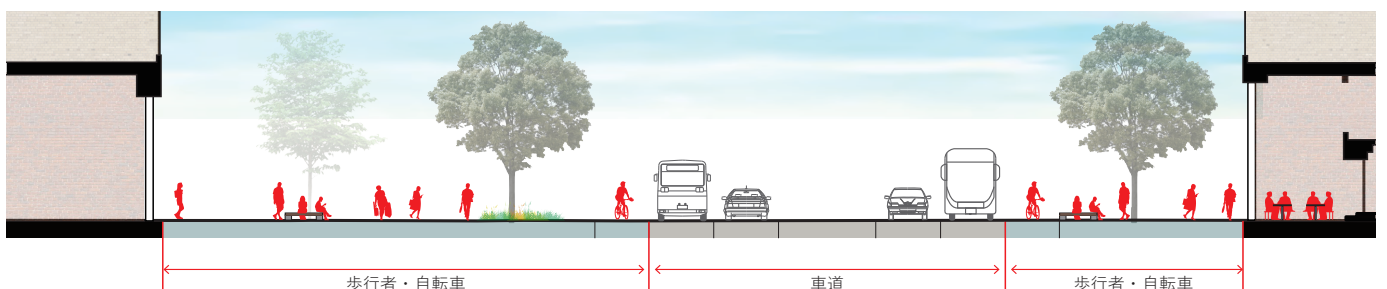
### 歩行者・自転車空間の拡大

- 1 交通安全の確保 (税関線は自転車交通量が多い(約1,000台/日)。コロナ禍で増加した自転車需要に対応)  
※自転車の「交通量が多い」場合とは、対自動車、対歩行者ともに事故が多い傾向にある500台/日以上を目安とする(道路構造令の解説より抜粋)
- 2 ウォークアブルなまちづくり、都市の魅力と回遊性の向上  
(歩行者・自転車空間の拡大⇒安全性向上、にぎわい創出、将来のモビリティ空間としての活用)

### 現状



### 計画



整備イメージ



1. 三宮北交差点 六甲山を身近に感じるとともに、北の玄関口として人の流れを呼び込むにぎわいある空間を形成

- 駅やまちからの人を迎える花壇
- 駅構内を出たときのアイキャッチにもなり、北の玄関口の顔となるシンボルツリー



- 回遊拠点となるモビリティスポットの整備
- クロススクエアの端部として舗装を統一することでゲート性、シンボル性を創出

2. 三宮交差点 神戸の玄関口“三宮”を印象付ける神戸の「顔」にふさわしい象徴となる空間

- ゆとりのある空間により動線や滞留空間を確保
- ボイド (わかりやすい縦動線)
- インスタレーションによる顔づくり



- 街角の建築物と共に 交差点の顔を印象付けるシンボルツリー

民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

3. 三宮クロススクエア  
東エリア | 日常時

交通結節機能とにぎわい空間が融合した  
神戸三宮の「まち」へのエントランス空間

- JR新駅ビルとの一体的なにぎわい
- 緑陰のある心地よい滞留空間
- フレキシブルに使える空間



- 水や花・緑などのうらおいある空間

6. 国際会館前

花と緑でうらおい、「まち」と「まち」がであう結節点

- 花と車道照明、舗装材の統一による一体感の演出
- 花・緑と一体となった滞留スペースの設置
- 周辺のまちへの回遊を促すモビリティスポットの設置



- 三宮中央通りへのゲートとしての空間の創出

4. 三宮クロススクエア東エリア | 大規模イベント時

- 多様なアクティビティに対応可能な空間構成 (水盤の水をおとして使用)
- デッキ広場とのにぎわいの連携



- 移動型店舗によるにぎわい

7. 税関線東遊園地前

公園と道路が一体となった空間を形成し、  
人々が憩い、交流し、歴史を感じる都心のオアシス



- 三宮駅からウォーターフロントへの人の流れと東遊園地と一体となった滞留を促す「みちひろば」
- フラワーロードに面したエントランスから園地への見通しを確保し、開放感あるエントランスを創出

5. 三宮クロススクエア  
南エリア

周辺のまちや、海へつながる  
回遊の起点となる「みち広場」

- 税関線を象徴する既存のクスノキ



道路空間の活用による連続したにぎわいを創出

8. 税関線磯上側歩道

駅からウォーターフロントや磯上エリアへ  
スムーズに人を誘う空間を形成

- 様々な空間を重ね合わせ、変化に富んだ街路景観を演出



- スムーズな移動のため、動線空間を直線的・連続的に確保

民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

# 「建築空間」のデザイン

## 対象区域

対象範囲における「建築物」「屋外広告物」等における景観形成の基準等を示します。

### 景観形成道路

まちなみの連続性や一体感、にぎわいの拡がりを感じられる道路軸景観を形成していきべき道路。

### 景観形成道路A (税関線)

海と山をつなぐ神戸の都市軸として、まちなみにぎわいの連続性を感じられる道路。

### 景観形成道路B (三宮クロススクエア)

高質で洗練された神戸らしさを感じられる象徴的な道路。

### 景観形成街角

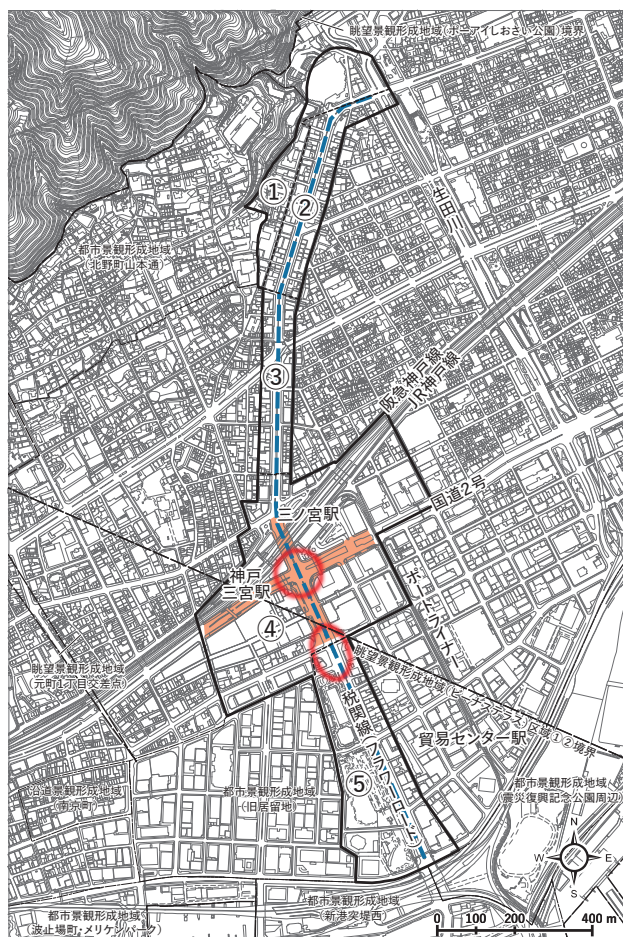
公共空間と建築物が互いに向き合い一体感と空間の広がりを特に演出する街角。

### 景観形成街角C (三宮交差点)

神戸の玄関口として、神戸の顔を印象づける象徴的な空間を創出する街角。

### 景観形成街角D (国際会館前交差点)

周辺の「まち」へのつながりを感じられる、一体感のあるにぎわいを形成する街角。



## 基準例 (建築物)

※下記は基準の一部を例示したものであり、基準のすべてではありません。

### 1 建築物の形態や壁面デザイン

建築物の壁面位置や軒線等の誘導により、まちなみの連続性、海や山への見通しや空への広がりを確保する。

- 高層部のデザイン
- ・ 広がりのある都市空間を形成するよう、高層部の壁面を中層部より後退させる。
  - ・ 軽やかで控えめなデザインとする。

- 形態や意匠
- 周辺の建築物との壁面の位置や軒線、スカイラインの連続性に配慮する。



### 2 建築物の低層部や外構の設えとデザイン

建築物の低層部は、にぎわいを生む用途の配置やピロティなど開放性のある空間の確保により、公共空間と一体的なにぎわいを創出する。

- 低層部の空間
- ・ 壁面のデザイン
- 景観形成道路に面して、大きな開口部やピロティ等のオープンスペースを設けるなど、にぎわいや空間の広がりを創出する。

- 歩行者空間
- ・ オープンスペース
- 敷地や建築物内部で、公共空間と一体的に利用できる空間の創出に努める。

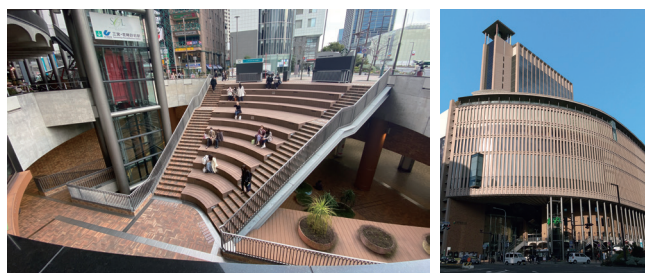


### 3 主要な街角の建築デザイン

街角の建築物は、神戸の新しい玄関口となるよう、周辺への回遊を促すエントランスの配置や、正面性のあるコーナーデザインとする。

- 街角の壁面デザイン
- ・ 街角との一体感や空間の広がりを感知されるデザインとする。
  - ・ 街角に向けて正面性があり、開かれたデザインとする。

- 街角の空間形成
- 街角では、周辺への回遊を促すエントランスや公共性の高い通路の配置、デザインを工夫するよう努める。





4 緑化や工作物などへの配慮

フラワーロードの愛称にふさわしい、まちに彩りを与える花や緑の演出などに配慮する。上質なまちなみとなるよう、工作物の修景や日よけ等の効果的な活用を行う。

緑化 壁面緑化や屋上緑化など、緑のうらおいが感じられる工夫を積極的に行う。

工作物  
・建築設備等 日よけ TENT 等を設ける場合は、必要最小限のものとする。  
・建築物や周辺環境と調和する大きさ、形状、色彩とする。



5 夜間景観

通りの連続性を意識した温かみのある照明、植栽のライトアップ等、にぎわいのある上質な夜間景観の形成に配慮する。

色温度 外部から視認できる照明は電球色を基調とする。

演出 建築物や植栽をライトアップするなど、良質な夜間景観の演出に努める。



基準例(屋外広告物)

※下記は基準の一部を例示したものであり、基準のすべてではありません。

地区や通りの特性に合わせ、公共空間や建築物とのデザインの調和により、空間の一体感と低層部の賑わいを演出する。

1 共通事項

- ・できるだけ集約し、必要最低限の大きさ、個数とする。
- ・色数を少なくし、原色の組み合わせは避ける。また、色の彩度を低くし建築物や周辺との調和を図る。



2 種類別

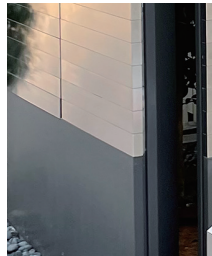
1 地上広告物 建築物や周辺との調和を図り、過度に大きくしない。  
・複数の内容を1つの広告物に表示する場合は、それぞれの表示内容のデザインを揃える。

2 屋上広告物 形態・意匠等に配慮しながら、建築物との一体化を図る。  
・1建築物につき1個以下とする。ただし、本基準の適用の際、すでに適法に表示又は設置しているものは除く。

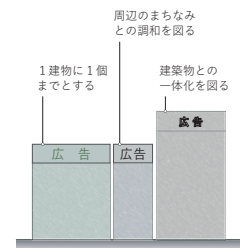
3 壁面広告物 建物との一体化を図るよう、壁面の素材感を失わない切り文字等とし、過度に大きくしない。  
・壁面と調和した色彩とする。

4 突出広告物 低層部に連続して設ける場合など、複数掲出する場合は、大きさや形状等のデザインを揃える。

5 幕 道路に面しない壁面には掲出しない。



▲ 1. 地上広告物の例



▲ 2. 屋上広告物の例



▲ 3. 壁面広告物の例



▲ 4. 突出広告物の例

3 夜間景観

- ・輝度は、周辺環境に配慮したものとする。
- ・内照式は避け、できる限り外照式とする。ただし、文字のみの場合など、良質な夜間景観を演出するものはこの限りでない。



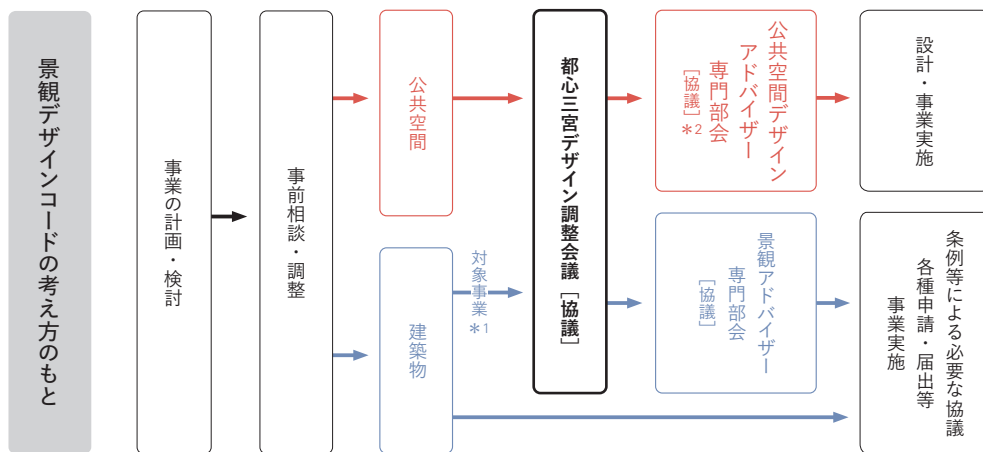
4 映像広告

- ・過度に点滅するもの、派手な色彩や動きの速い動画は避ける。
- ・情報、文字が多いものは避け、デザイン性の高いものとする。



## 景観デザインコードの運用

- \*1 原則、神戸市都市景観条例に基づく景観デザイン協議の対象行為に準ずる
- \*2 事業によっては、都心三宮デザイン調整会議が、当部会を兼ねる場合がある



## 都心三宮デザイン調整会議

### 目的

再整備を進めるにあたっては、行政が中心となって整備する「三宮クロススクエア」や税関線等の公共施設と周辺の建築物等の民間施設が、官民の連携によって一体的な空間を整備する必要があります。今後計画される公共施設や民間施設について、相互に調整しながら一体的で魅力的な空間を目指すため、学識経験者等の専門的な見地より意見を求めるとともに、総合的なデザイン調整を行う場として、都心三宮デザイン調整会議を設置しています。

### メンバー

(H30.12～R6.1)

神戸大学大学院工学研究科 教授  
 森崎建築設計事務所  
 京都大学大学院工学研究科 教授  
 神戸芸術工科大学環境デザイン学科 教授

末包 伸吾  
 森崎 輝行  
 川崎 雅史  
 長濱 伸貴

(R6.2～)

神戸女子大学家政学部家政学科 教授  
 大手前大学建築&芸術学部 准教授  
 京都大学大学院地球環境学堂 教授  
 大阪芸術大学建築学科 教授  
 株式会社LEM空間工房 代表取締役  
 京都芸術大学 客員教授

田中 栄治  
 増岡 亮  
 川崎 雅史  
 吉武 宗平  
 長町 志穂

神戸三宮「えきまち空間」・税関線  
 景観デザインコード  
 2022年(令和4年)6月発行

編集・発行  
 神戸市 都市局 都心再整備本部  
 都心再整備部 都心三宮再整備課  
 〒651-0087  
 神戸市中央区御幸通6-1-12  
 電話：078-984-0243  
 FAX：078-222-1605

神戸市 都市局 景観政策課  
 〒651-0083  
 神戸市中央区浜辺通2-1-30  
 電話：078-595-6725  
 FAX：078-595-6805

